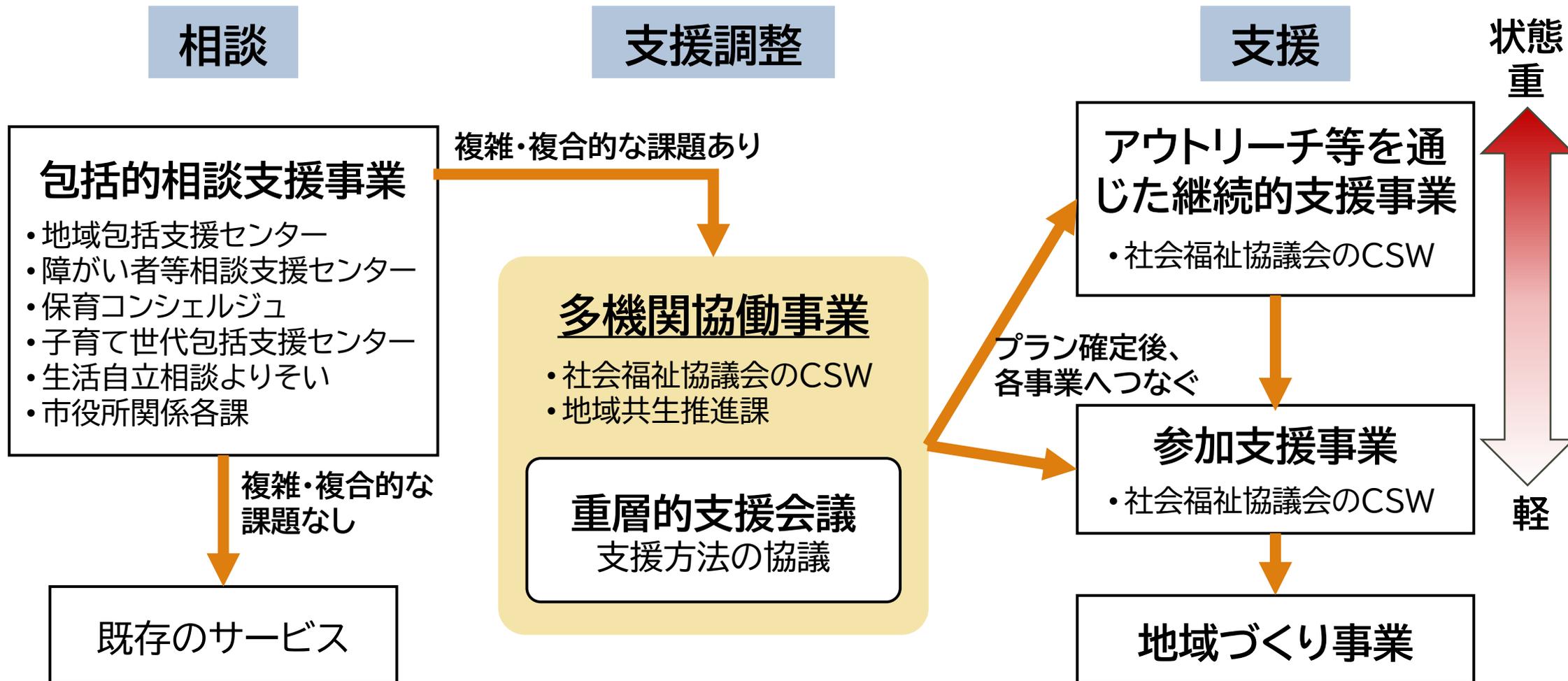


「虐待情報」をきっかけとする 多機関連携による ケアラー支援

越谷市社会福祉協議会

須田 舞香

越谷市多機関協働事業



1. Aさん家族の基本情報

ケアラーAさん

- 50代女性
- 無職
- 離婚後、実家に戻る
- 2階建ての持ち家

- 認知症の母を介護
- 前年までガンの父の介護をして看取る

- 腰痛、慢性的な足のしびれあり(原因不明)
- 話好きだが、友人等の交流はない様子

母親

- 80代女性
- 要介護3(要介護1から更新)
- 半年程前から認知症悪化(暴言あり)
- 屋内つたい歩き、尿取りパット利用
- 着替え等、ADL面の介助が必要

- 半日デイサービスを週4回利用
- 年金は約33万円/2か月

長男

- 30代男性
- 5年ほど前から無職
- 元介護職
- 貯蓄があり、再就職を急いでいない

- 友人等はなく、次男と仲がよい。
- 引きこもりがち

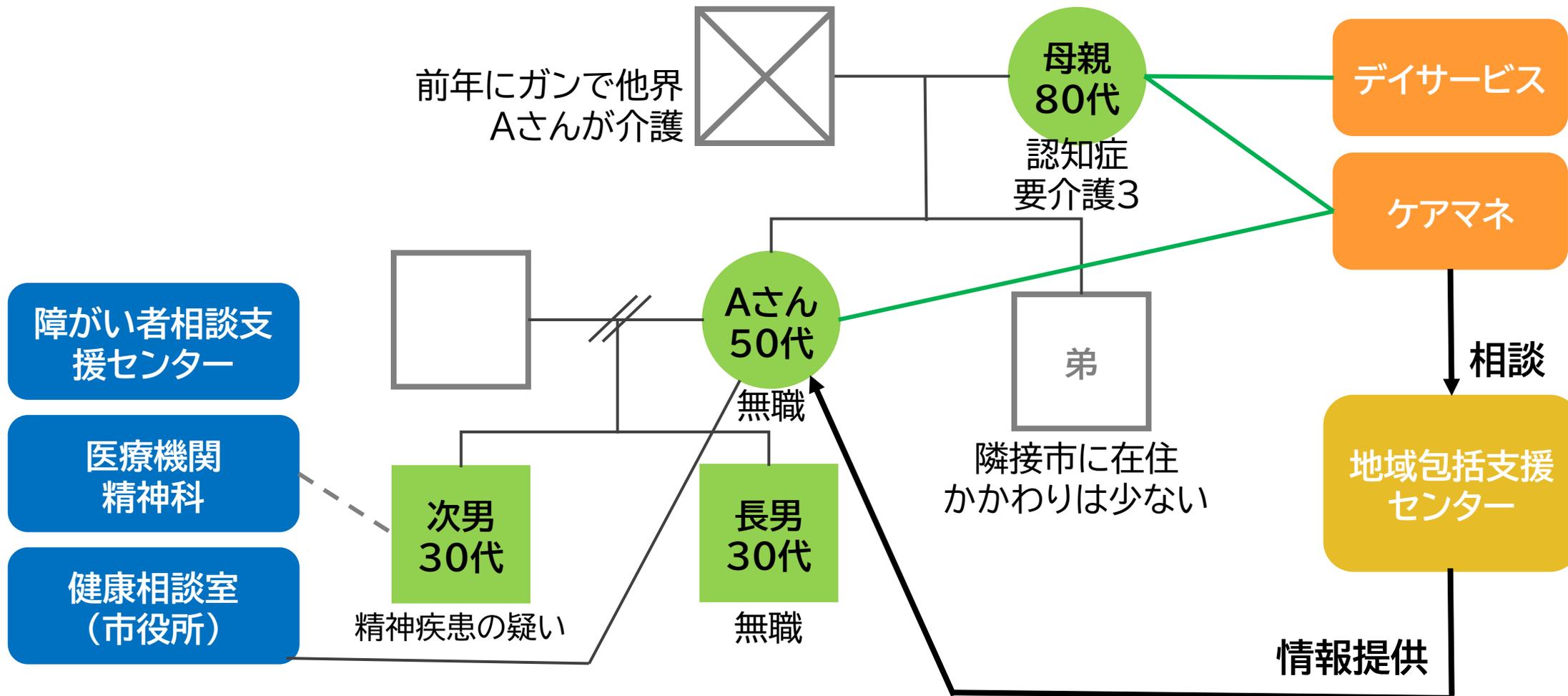
次男

- 30代男性
- 精神障害の疑い
- 病院受診するもやめており、服薬の継続はできていない。

- 3年ほど前から無職
- 就労意欲はある。

- 仕事が好き
- 優しい性格

2. 関係機関の関わり方



3. Aさん(ケアラー)の状況

母親の介護に対する姿勢

Aさんは、完璧な介護をしようとしている様子が見受けられる。

母親に毎日散歩に行かせたり、何度も手を洗わせたり、自分の子どものように扱っている。

介護負担を軽減するため、ショートステイ利用をすすめて、1度利用したが、「母がいないと心配で気が休まらなかった」と言い、以後の利用にはあまり積極的ではない。

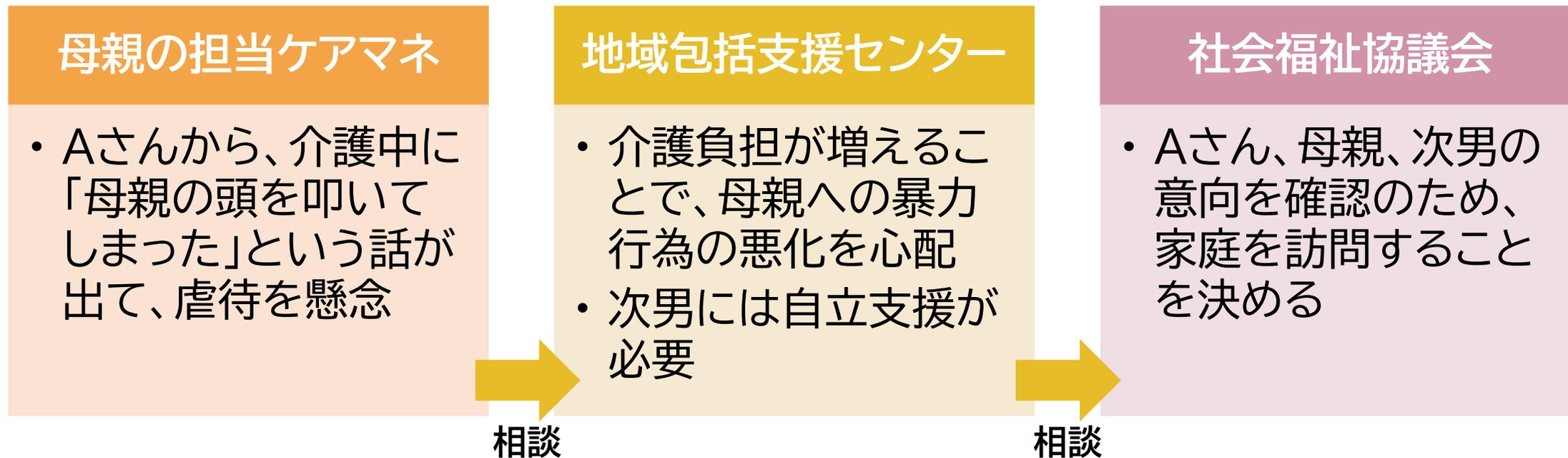
次男に対する姿勢

次男はパニック障害で躁鬱症状がある。「母親の介護に手がかからなければ、もっと次男に手をかけられる」という発言があった。

精神科を受診したことがあるが継続治療とならなかった。地域包括支援センターから健康相談室(市役所)への相談を勧められてAさんが連絡をとり、精神科への受診を勧められたが、予約が取れずにそのままになっている。

相談先として、障がい者相談支援センターを紹介したが、まだ連絡をとっていない。「家庭を居心地の良いものにしたいので、次男に対する相談はここで(自分の家で)したくない」という発言があった。

経緯①4月上旬 地域包括支援センターからの相談



経緯②4月下旬 初回訪問(Aさんと面談)

訪問者

社会福祉協議会1名、地域包括支援センター2名、担当ケアマネジャー

母親の介護について

週1回でもデイサービスに1日中通えるように、ケアマネ中心にアプローチしていく。

次男の支援について

障がい者相談支援センターと連携して、今後のカウンセリング等方針を相談していく。

この日は、長男、次男が同席せず、次男の意向が確認できなかったため、次回、情報提供として相談支援センターの職員と訪問することにする。

経緯③5月上旬 2回目訪問(Aさんと面談)

訪問者

社会福祉協議会1名、障がい者相談支援センター1名、
地域包括支援センター2名、担当ケアマネジャー

母親の介護について

デイサービス、ショートステイの利用は、現状を維持する。

次男の支援について

次男の窓口として、障がい者相談支援センターの方を紹介し、Aさんに通院先の情報提供を行う。次男は同席せず自室にいる模様。

Aさんからは、次男は自分で通院先や相談支援センターへ連絡したいと思うとの意見がでる。

Aさんから次男へ障がい者相談支援センター、通院先の情報を伝えてもらい、次男のタイミングを待つことにする。

経緯④今後の方針

Aさんへの支援について

Aさんに母親を叩くことなどが「虐待」につながってしまう可能性を理解してもらいたい。

Aさんの介護負担軽減をめざす。

Aさんに母親の認知症について理解してもらうために、かかりつけ医に、画像や認知症検査等を用いて説明してもらえよう地域包括支援センターから依頼予定。

次男への支援について

次男から、障がい者相談支援センターへの連絡はまだない。

(9月中旬)地域包括支援センター主催のケース検討会議を実施予定